



JAC 北九だより NO 2

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Branch of The Japanese Alpine Club

発行所：社団法人日本山岳会
北九州支部 事務局（日向）
小倉北区熊谷 4-14-17
TEL・FAX 093-592-0275

発行者：吉村 健児
編集人：蔵富幸夫・溝部忠増

私の20世紀・想出の山

支部長 3173 吉村 健児

21世紀の幕は開かれました。会員の皆様御元気で新年を迎えられたことと思います。山で初日を見た人も、家庭で家族と共に屠蘇を呑み、雑煮を食した方もおられると思います。まことに平穏なお正月を迎えて有難き時代であります。

私は今年で登山を始めて65年になります。中学1年生の昭和12年、英彦山に登ったのが最初で、昭和17年、伯耆大山で初めて御来光を拝み、昭和23年5月、単独で、北アルプス燕岳から大天井岳を往復致しました。当時は八幡製鐵所山岳部員でしたが、誰も北アルプスには入山した実績はありませんでした。この年から23年間、正月の連休はすべて、北アルプスカ伯耆大山の雪山の中で過ごしたことが記憶に残っています。海外の山は昭和47年の9月、ヨーロッパアルプスのモンブランへ行き、11月にはヒマラヤのエベレストビューホテルまで、当時の日本山岳会会長の三田さん一行に加わって行ったのが最初です。その後、海外の山行には、35回行きました。還暦の60才の時、何か目標を立てて登山を続けようと思い、日本百名山の完登を70才までにと登り始めましたが、72才になった平成8年10月19日、磐梯山で終わりました。私の登山に対する信条は①山の自然環境を大切にすること。②事故を起こさないようにし、自分の体を大切にすること。③山の仲間を大切にし一人でも多くの山友達を作ること。

北九州支部が発展をとげるために、会員が一致団結して和気あいの雰囲気を充満して進もうではありませんか。

山歩きで生きがいを

山行委員 11977 溝部 忠増

私はこの秋、『古希』を迎えますが、いまでも元気に山歩きを楽しんでいます。多くの若者、また中高年の仲間もいます。毎年各地からたくさんの賀状がきます。60才で定年後も、減るところか、むしろ増え続けているくらいです。定年後に必要なヒューマンネットワークが完成していたからです。

それは私が山を歩き続けた結果です。私にとって定年を迎えたということで、毎日が日曜日。いつでも山歩きを楽しめる「自由キップ」をただでもらったような喜びでした。

ぶんや稼業の現役時代は、休日も少なく、どうしても混み合う土曜、日曜日にしか山にいけません、歯がゆい限りでした。しかし、定年後は楽々と、ウィークデーのすいた時に行けるのです。

しかし、社内を見回してみると、私の世代は、多忙の上、保身に走り回る人が目立ちました。それは「醜い」ことだと思ったものです。

なぜなら、私は現役時代から、社内外の多くの山の仲間にもまれて歩いていました。みんな健康で明るく、嬉々として定年を待っている人たちばかりでしたからです。

定年後の「第二の人生」をたのしむには、健康と生きがいを見つける事だと思います。山歩きは、人生のすべてを、十分に満たしてくれる要素をもっています。

海外遠征プラン

会員アンケートを配っています。ご自分の体力などを考えられて、ご回答を。

新年に思う

会計 11895 山本 守

ラッセルをふりかえる時、

山は見える人生だ。

雑踏の舗装路に行くより、

ひと筋の道を歩みたい。

20歳の時、積雪期北アルプス鹿島槍ヶ岳合宿中に作った一節だが、今思うと、当時の山登りは感激、感動の連続だった。それに冬山は無理としても、夏山は自分が登ったコースを、将来自分の子供と一緒に辿る。というのが、独身当時の夢でもあった。その夢は、2人の子供が小学校に上がった時実現した。

下の子が小学1年時に蝶、常念縦走から始まり、槍ヶ岳登頂、穂高縦走、劔岳登頂、と毎年夏山に登り、白馬岳を最後、下の子が中学生になったのをきっかけに家族登山を終了した。しかし本当のきっかけは、実は自分自身、中年の不摂生がたり、テント、食料を担いでの白馬大雪渓の登りに、情けないほど時間と体力を消費してしまったのである。

今は、軽登山と、山野草で草木染めと織りを趣味として楽しんでいるが、最近足腰の衰えをひしひしと感じてきたので、通勤の道程の一部に自転車を取り入れる、53歳の昨今です。

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～

新年になって・・・

記録広報 11150 蔵富 幸夫

今日(平成12年12月18日)12月13日付の身体障害者手帳(2種4級)をもらった。

平成7年5月6日脳梗塞にて右半身麻痺で産業医科大学病院に入院して5年、リハビリに専念して車椅子は2ヶ月で卒業したが、言語障害・右半身の回復は思うように行かず、現在80%位は回復していると思う。せめて5～6m小走りができたらが、当面の目標である。何をやるにも人様のお世話になるので、自分は今何が出来るのか、何をすべきかを考えて行動する今日この頃である。

福智山に想いを寄せて

会計監査 5247 三上 忠人

昨年初夏の某日、久しぶりの福智山登山を福智ダムよりカラス落とし越えコースで、深緑の林間を小鳥のさえずりを満喫しながら、我々高齢者グループ六人で山行を楽しんだ。

カラス落とし手前で男女高校生約七、八十人の福智山登山を終えて下山する若者とすれ違った。若さ滲刺、朗らかな話し声がああ林間にしばしこだました。特に女子高校生の元気さには圧倒され、そのことが、我が遠い昔日を懐かしさと共に思い出させさせた。

カラス落とし峠の、清水こんこん流出する「タヌキ水場」で休憩し、その横の木立陰に数歩踏み込んで大変な光景に出会った。それは木陰の草原一面にチリ紙の花が咲き誇っているのではないか、考えてみれば福智山頂上は低木林、トイレ設備無しでの山頂、先程の女子高校生の仕業は想像がつくというもの。折角の登山に来てトイレ無しでは、人目を忍びながらも人間としては致し方ない生理現象。この光景を眼にした時、これは登山以前の問題として、我々山岳関係者が真剣に取り組むべき事と痛感した。

世間では環境保全が盛んに叫ばれ、富士山や尾瀬ヶ原高原など全国各地で自然保全の為に、指定場所以外は男性でも厳しく厳禁を決められているのが昨今の現状だ。

幸い、この度「日本山岳会・北九州支部」が結成され、多くの山愛好家がこの会に集うことができた。この団体の力を結集すれば、問題解決におのずと答えがあると思う。

この案件に関し異論のある山岳関係者は無し、を確信出来るし、営林署、県、市などの理解を得ながら浄過設備完備のトイレを設置に微力ながら尽力したい。そのことが手近に岳人にそして、市民に親しまれる山として、我々は福智山を誇れると言うものだ。



皿倉山の薬草と薬用樹木園

副支部長 4325 秦野 一彦

皿倉山(622m)は、福智山(901m)を主峰とする香春岳から南北に25kmにわたって続く、福智山地の北端に位置し、その尾根続きには権現山(617m)、帆柱山(487m)、花尾山(351m)の三山が相接した起伏山地で、帆柱自然公園となっている。福智山一帯にまたがる国有林は、北九州自然休養林に指定され、1972年に北九州国定公園にも指定された。

皿倉山の南面はスギ、ヒノキの植林地が広がり、人為的要素が多分に入った山地であるが、北面は自然度が割に高く、北東斜面は広い面積にわたってススキ草原である。皿倉山の南西に続く権現山の北西斜面には、樹高が25m、胸高直径1.2mに達する、樹齢200年に及ぶ老杉林が見られ、樹陰植物も豊富である。

1958年にケーブルカーが開通し、容易に山頂に上ることができるようになった。また表登山道は1937年に完成し、現在は整備されて、完全舗装になっている。山頂からの展望はよく、九州北部の諸山が望め、四季を通じて登山者が絶えない。

皿倉山一帯には多くの薬用植物の自生が見られ、156種余りが確認されている。これらの薬用植物は、日本に広く分布しているものが多いが、このように多くの薬用植物が一つの山で見られるのは大変喜ばしいことで、愛好家や研究者にとってはまたとない自然薬草園であり、また登山者の目を楽しませてくれる。

1977年より毎年秋に、社団法人八幡薬剤師会が中心となって、一般市民を対象に薬用植物に対する正しい知識の普及を目的として、薬用植物研修会「皿倉山の薬用植物を訪ねて」が行われ、今年で24回を数えるが、毎回多数の市民が参加している。

1998年皿倉山南斜面の緑に囲まれた約3,780㎡に、(社)八幡薬剤師会付属薬用

樹木園が設立され、自然教育と憩いの場として一般の方々に利用されている。園には、現在のところ皿倉山に自生する薬用樹木をはじめ日本各地から入手したものを含め、138種類が植栽されているが、さらに薬草類も含めた薬用植物園として整備が進められている。

活動、山行に白熱の意見

役員会報告

日向祥剛

第3回支部役員会は11月9日、八幡東区大谷会館で開催。吉村支部長より本部、及び各支部に「JAC北九だより」を送付した反響が報告された。一般会員数人も参加。

- ① 各支部の会報・通信が送られてきており事務局で保管している。閲覧はご連絡下さい。
- ② 宮崎支部よりウエストーン祭、出版祝賀会への出席要請があり、数人が参加。
- ③ 山行について意見多く、協議を重ねた。

会員188人に

役員会報告

溝部忠増

第4回支部役員会は、12月14日小倉北区のサロンルーム「阿沙野」で開催、次の報告、協議をしました。

- ① 支部に登録された会員は、12月1日現在で、本部会員52人、支部会員136人、計188人となった。
- ② 支部会報「JAC北九州だより」N02号は、2001年正月に発行する。以降、原則として2~3ヵ月単位で発行。
- ③ 支部運営の基本的な考え方について、今後役員会を中心に、その都度、協議を重ねてゆく。
- ④ 開催したサロンルーム(毎月第2火曜)福智山の集い(毎月第3土、日曜)は、すべり出しやや低調だが、会員へのPRに努め、順次、推進を図ってゆく。

⑤ 平成12年度のJAC年次晩餐会は、12月2日、東京の新高輪プリンスホテルで開かれ、吉村支部長、日向事務局長が出席、鏡開きでは、吉村氏が代表に加えられたほか、会議でもしばしば、北九州支部新設が注目の的となる。なを、皇太子殿下、橋本龍太郎元首相らも出席された。

－ 晩秋の祖母山頂へ －

北九 202 矢山 功

祖母山・祇園山 (H12年11月11日～12日)
北九州～高森～高千穂～五ヶ所登山口～北谷～風穴～祖母山山頂～登山口～高千穂：民宿「刈干」～登山口～祇園山～五ヶ瀬～北九州
一日目祖母。薄曇りの登山にはもってこいの天気の中、12時すぎ、北谷登山口より登山開始。歩きやすい道が続く。3合目の手前に水場あり。13時40分、国見峠到着。霧が出てきて視界が10m程度しかない。14時40分、山頂着。少し肌寒いが風は無く快適である。軽めの昼食を早々に切り上げ15時10分下山開始。下りはさらに快調なペースで17時登山口に戻った。今朝、小倉を出発したのに、その日のうちに祖母山山頂まで往復できる。祖母山も近くなった。

二日目は祇園山。宿から40分で登山口に到着。車が着くとシカが走り去る。登山者は余りいないようだ。西南の役の塹壕跡を横目に取り付きを急登し、すぐに尾根筋に出る。両脇の笹はきれいに刈り払われており、とても快適だ。尾根筋を小1時間登るともう頂上についた。頂上はあいにくの視界だったが、よく整備されており、感想ノートを入れた箱と、たくさんの石南花の植樹が目を引く。午後はお花畑になりそうだ。軽くおやつを食べて下山。11時過ぎ、登山口に到着。

両日とも天気も何とか持ち、落葉の感想と共に「膝にも優しい」ととても快適なハイキングであった。思いがけず地元の夜神楽見学や、お約束の温泉もあったのだが、その感想は今度参加者に聞いてみて下さい。

【 福智山で会いましょう 】

11月の第3日曜日、山崎、麻生、前原、常磐高築さん達と登りました。小屋で金さんにお会いし、山頂で楽しい昼食を戴きました。山小屋や山頂で、会員の方々を探しましたが、わかりませんでした。出来るだけ福智山に行きます。みなさんも参加して下さい。(日向)

山行委員から連絡とお知らせ

渉外山行 11138 西岡 謙

第1号案内の登山計画表のうち、グループAにつきましては、11月11日～12日、祖母山、祇園山に8人(太田、小野、矢山、浜松、藤垣、吉井、吉井、西岡)の参加を得ました。祖母嶽神社の夜神楽と時期的に重なったこともあり、望外の楽しみを得ることが出来ました。12月以降の山行計画には多少の無理もあり、一旦見直しをするとともに、会員、支部会員の皆様の要望を、紙面に反映させて行きたい、と思います。

【 広告掲載にご協力を 】

「JAC北九だより」の充実と紙面刷新を図るため、会員有志、山岳関係団体、登山用品店などのPR広告を歓迎します。お申し込みは1回、10,000円以上(前金)で、事務局あてにご一報ください。

◇ ◇ 編集後記 ◇ ◇ 新世紀へ

新世紀の扉が開きました。その幕開けを告げる初日の出を山々で迎えられた会員の方々は、さぞかし多かったことでしょう。厳寒のアルプスで、あるいは、地元の福智山で迎えられたと思います。私も福智山に登り、百年に一度の初日の出を拝みました。

会員のみなさん、この一年も山へ、山へとお誘いをしますが、それはあくまでも無事故で、無事に帰ってくることが前提です。自然に対して、謙虚に、自然に対して英知の心を働かせて、山へ行きましょう。山の恵みを、からだいっぱいもらって、すこやかな一年をすごしましょう。人間の一生の短さにくらべたら、大自然のいのちは悠久です。山道に一步入るだけで、何才になっても、10代の少年時代の昔と、ちっとも変わらない自分を見出しています。いろいろな出会いを求めてさあ出発しましょう。(日向)

蔵富幸夫、溝部忠増、山本 守、日向祥剛